



麗花梅雪耐



2021年9月6日発行

感謝の言葉を口にする大切さ

コロナによって延期されていたオリンピックも終わり、日本は過去最高のメダル数でした。今回のオリンピックで印象的だったのはメダルを取った後の選手のインタビューでした。

高藤選手(金メダル)は試合後に、「みんなに支えてもらったの結果だと思う。監督やコーチに迷惑をかけてばかりだった。」また、渡名喜選手(銀メダル)は、「自分の弱さが出た試合です。しっかりこの負けを自分の中で認めていきたい。」と言いました。本当にこの言葉に感動しました。なぜ、世界1位になっても「勝った自分を凄い」と言わず「周りの人のおかげで」と優勝直後に言えたのでしょうか。



さらに、惜しくも銀メダルで、その悔しさを抱え号泣しながらのインタビューで、「ああすればよかった」ではなく「負けを認めたい」と試合直後に、なぜ言えたのか。周りの人からのサポートや、たくさんの励まし、コーチからたくさん叱られるなど、いろいろな人から気にかけてもらった。それを受け止めて応えていこうという気持ちを常に念頭に置いていたからではないでしょうか。日ごろから自分のよかった点、ダメだった点をしっかり分析し、把握できていたのだと思います。だから、どんな状況でも、あのような素敵な言葉が出てきたのだと思います。かっこよすぎました。

このオリンピックを通して、皆に感じてほしいことが2つありました。

1つ目は、メダルを獲得した選手のインタビューで必ず出ていた言葉「感謝」。どの選手も、自分を支えてくださった多くの方、応援してくださった多くの方に感謝の気持ちを表していました。「自分の努力もあったかもしれないが、その何十倍も多くの方に世話になり、今の自分がある。」という思いからでしょう。みんなも1人ひとり度合いはあるけれど、オリンピック選手と同じように、色々な人に支えてもらっています。ぜひこの感謝の心を学ばなければ…と思いました。

2つ目は、「粘り強さ」です。どの選手も、今は、メダルをもらい輝かしい場に立っていますが、ここまでは、多くの困難に見舞われています。けがや大きなスランプに突然おそわれ、絶望的になり、やめてしまおうと思った人もいたと思います。しかし、粘り強く困難を克服し、やり通したことで、今の栄光があるのです。これは、学校生活でも同じようなことがいえると思います。皆さんにも、困難にぶつかっても、簡単にあきらめるのではなく、粘り強くやり通してほしいと思います。

同級生の活躍

おめでとう!

<部活動大会結果> ※関係分のみ

全国高等学校総合体育大会

柔道：個人 3位 伊藤あくあさん(2A6)
5位 鈴木孝太郎くん(2D2)

